

1. 研究の背景と目的

日本を含む漢字文化圏の国々では, 1 つの著者名に対して多様な表記が存在し, 利用者の検索を助けるために典拠コントロールが極めて重要である。日本, 中国, 韓国の間で典拠情報を共有することができれば, 典拠データ作成の労力削減や, 国内外の利用者の検索の利便性向上につながる。

欧米では, NACO や VIAF など, 典拠情報の共有の動きが見られるが, 漢字文化圏の表記の複雑さが理論的に反映されていないため, 漢字文化圏特有の事情をふまえた典拠情報の共有については, 漢字文化圏の中で詳細に検討すべきである。そのためには, まず漢字文化圏の典拠データ間にどのような相違点があるのかを明らかにする必要がある。これまでに韓国, 中国など各地域内における典拠データの比較研究は見られたが, 漢字文化圏全体を対象とした研究は見られない。

本研究は漢字文化圏の典拠データのうち, 日本人・団体著者名典拠データの表記について, 中国, 日本, 韓国, LC を対象とした比較研究を行う。本研究の目的は, 日本人・団体著者名の日本, 中国, 韓国, LC における表記を比較し, 相違点を発見して, 典拠データ共有のための課題を整理することである。

2. 典拠コントロールの状況と研究対象

日本では, 国立国会図書館 (以下 NDL), 国立情報学研究所の書誌ユーティリティ NACSIS-CAT, 慶應義塾大学図書館 (以下慶應大) など複数の機関が典拠データを作成している。

中国大陸の大学図書館コンソーシアムである中国高等教育文献保障システム (以下 CALIS) の日本人名・団体名典拠データは, NACSIS-CAT の典拠データを流用している。香港の 7 大学の図書館コンソーシアムのプロジェクト Hong Kong Chinese Authority (Name) Workgroup (以下 HKCAN) が公開しているオンライン典拠データベースには, 日本人名・団体名の典拠データも含まれる。台湾では, 国家図書館 (以下台湾国家) の OPAC の書誌データの著者名リンクを辿ると典拠データを参照することができる。ただし空のデータも目立ち, 構築途中であることがうかがえる。

韓国では, 国立中央図書館 (以下国立中央), および複数の大学図書

館が日本人名・団体名典拠データを作成している。本研究では, NDL, NACSIS-CAT, 慶應大, CALIS, HKCAN, 台湾国家, 国立中央, ソウル大学図書館 (以下ソウル大) および LC を研究対象とする。

3. 研究方法

まず, 1) 日本人名・団体名典拠データを表記する上で, 必要となる項目や特徴的な項目として, ①漢字形の扱いと文字種, ②漢字とヨミの対応関係の有無, ③ローマ字の種類と扱い, ④姓と名の分かちとカンマの有無, ⑤日本以外の地域における現地語 (ハングル等) での表記の有無と方法, ⑥ひらがなによる著者名の扱い, を設定した。次に, 2) 各典拠データ作成機関で使用されているマニュアル, 先行研究, 各典拠データベース又は OPAC を検索した結果等から, 各典拠データの表記について 1) で設定した項目について調査し比較表を作成した。入手したマニュアルと参照したデータを第 1 表に示す。最後に, 3) 比較表をもとに各典拠データの相違点を明らかにし, 典拠データ共有のための課題を整理した。

4. 結果

項目①から⑤の結果を第 2 表に示す。

4.1 漢字形の扱いと文字種

CALIS では, 日本語図書から作成される典拠レコードと, 中国書から作成される典拠レコードが同一人物であっても別々に作成されている。日本語図書から作成されたレコードの典拠形 (日文献拠形) では, 日本漢字が使用され, 中国書から作成された

第 1 表 収集し分析に利用したマニュアルとデータ

国・地域	機関	マニュアル	分析に使用したデータ
日本	NDL	日本目録規則 1987年版 改訂3版, JAPAN/MARC MARC21フォーマットマニュアル典拠編	「Web NDL Authorities」で検索可能な典拠データ
	NACSIS	日本目録規則1987年版改訂版, 目録情報の基準(第4版), 目録システムコーディングマニュアル	典拠データ ¹
	慶應大	内部マニュアル ¹ , 日本目録規則1987年版改訂3版, MARC21/A, AACR2	典拠データ ¹ , OPACで検索可能な書誌データ
中国大陸	CALIS	CALIS聯合目録規範控制過程詳細説明(更新版) ¹ , CALIS日文联机編目工作手冊(第4版) ²	「CALIS聯合目録規範 OPAC」 ³ で検索可能な典拠データ
香港	HKCAN	AACR2, MARC21/A	「HKCAN Database OPAC」 ⁴ で検索可能な典拠データ
台湾	台湾国家	中国編目規則(第3版) ⁵ , MARC21/A, 国家圖書館譯名權威記錄處理原則 ⁶ , 國家圖書館「日本作者中譯名與原名之著錄原則」 ⁷ , 國家圖書館「日本書」人名標目著錄原則 ¹	OPAC ⁷ で検索可能な書誌データ, リンク先典拠データ
韓国	国立中央	KORMARC/A ⁸	OPAC ⁹ で検索可能な書誌データ
	ソウル大	独自マニュアル ¹⁰ , AACR2, MARC21/A	OPAC ¹¹ で検索可能な書誌データ
米国	LC	AACR2, MARC21/A, LCRI(Updatesのみ)	「Library of Congress Authorities」で検索可能な典拠データ

¹ 研究用に提供を受けたマニュアルまたはデータである

レコードの典拠形（中文典拠形）では中国語の簡体字、繁体字が用いられている。台湾国家でも、日典拠形と中文典拠形をそれぞれ目録対象資料中の文字種で作成し、相互参照することになっている。

HKCAN では漢字形を典拠形標目に対応する標目リンク記入(7XX)に記述する。原則として目録対象資料の文字種を採用することになっており、日本漢字が使用される場合と繁体字が使用される場合の両方が見られた。韓国の国立中央では、漢字形は“同名異人を区別したり、より明確な識別が必要な場合”¹²⁾を見よ参照形である漢字のハングル表記に付記する。付記する際の文字種に関する規定が存在するかどうかは不明である。ソウル大では目録対象資料に出現した漢字形を見よ参照形として転記することになっており¹²⁾、複数の文字種が参照形に記録される可能性がある。LC でも漢字形の文字種は規定されておらず、日本人著者であっても参照形に日本漢字形が存在しない場合がある。

4.2 漢字とヨミの対応関係の有無

日本語の漢字には複数のヨミが考えられるため、ある名前に対して、それをどのように読むかという情報が重視される。日本の3機関では、いずれも漢字形とヨミが対応する形でデータが作成されており、CALISも、典拠形標目である漢字形の付記事項としてヨミを与えていた。しかし、その他の機関では基本的にヨミの情報はなく、国立中央では参照形としてカタカナ形があるものもあったが、典拠形標目との対応関係は示されていなかった。

4.3 ローマ字形の種類と扱い

日本語のローマ字化規則には、ヘボン式、訓令式の2派がある。ローマ字形を採用していない機関を除き、各機関で採用されているのはヘボン式であった。しかし、ローマ字形を典拠形標目または必須とする5機関のローマ字表記を比較したところ、同じヘボン式であっても第3表のような違いが見られた。

第3表 5機関のローマ字表記の違い

確認項目	検索語	NDL	慶應大	HKCAN	ソウル大	LC
長音	講談社インターナショナル株式会社	Kodansha Intanashonaru Kabushiki Gaisha	Kodansha intanashonaru kabushiki gaisha	Kodansha Intā nashonaru Kabushiki Kaisha	Kodansha Intā nashonaru Kabushiki Kaisha.	Kodansha Intānashonaru Kabushiki Kaisha
chの前の促音	日中経済協会	Nicchu Keizai Kyokai	Nitchu keizai kyokai	Nitchū Keizai Kyōkai	Nitchū-Kan Kodomo D ōwa Kōryū Jigyō Jikkō Iinkai. (日中韓子ども 童話交流事業実行委 員会) ¹⁾	Nitchū Keizai Kyōkai
nと次のyを切り離す	頼山陽	Rai. San'yō	Rai. Sanyō	Rai. San' yō	Rai, San'yō	Rai, San' yō
オオ	大江健三郎	Ooe, Kenzaburo	Oe, Kenzaburo	Ōe, Kenzaburō	Ōe, Kenzaburō	Ōe, Kenzaburō

1 検索語がヒットしなかったため類似の標目を挙げた。

4.4 姓名の分かちとカンマの有無

日本以外の機関ではローマ字形を除き、基本的に姓名の間にカンマは付与していない。ただし台湾国家は漢字形の姓名の間をサブフィールドコードで分かちしていた。さらに国立中央では、典拠形標目である漢字の日本語読みハングル表記の姓名の間にはスペースを置いて姓名を分かちしていた。

4.5 日本以外の地域における現地語（ハングル等）での表記の有無と方法

国立中央では、個人名の典拠形標目は漢字の日本語読みハングル表記であり、漢字のハングル表記を参照形として記述していた。団体名の典拠形標目は漢字のハングル表記としていた。ソウル大では、目録対象資料から得られる、漢字の日本語読みハングル表記、漢字のハングル表記を見よ参照形としていた。CALIS は参照形に漢語ピンイン形が記述される場合があるが、NACSIS-CAT の参照形に記述されているものがそのまま転写されたものであり、CALIS 独自のものではない。HKCAN は、参照形に

英語形や漢語ピンイン形が記述される場合があり、LC の参照形が転写されたと考えられるが、HKCAN が独自に追加した標目も存在した。LC は目録対象資料に現れる異形で、重要と思われるものをすべてを見よ参照形に記述するため¹³⁾、ハングル形、キリル文字形などさまざまな表記が記述される。

4.6 ひらがなによる著者名の扱い

氏名にひらがなの含まれる著者5名の氏名を検索語として各機関のデータを調査した結果を第4表に示す。韓国の2機関ではOPAC を検索して調査したため、日本語と、それぞれの典拠形で検索した際のヒット数を()内に示した。

CALIS は日本語で正しく検索できるものの、中文典拠形のある著者は、ひらがな部分が漢字に変換されており、中文典拠形と日文典拠形のリンクが存在しないため、検索漏れが懸念される。HKCAN は典拠形であるローマ字形に対し、標目リンク記入(7XX)として日本語形がおおむね正しく記述されており、どちらでも検索が可能であるが、「さくらももこ」のみ漢字形が標目リンク

記入に記述され、ひらがな形は参照形の扱いであった。台湾国家では、マニュアルでは日本語形と現地形を相互にも見よ参照することとなっているが、現実には参照されておらず典拠の未整備が目立った。国立中央は日本語で検索した場合、典拠形で検索した場合のヒット数が異なるものが多かったが、ソウル大は「よしもとばなな」を除きどちらでも検索できた。LCは参照形に日本語形の記述があるためいずれも検索に支障はなかった。

5. 典拠データ共有のための課題

以上の結果から、漢字文化圏における典拠データ共有のための課題を次のように整理することができる。①国立中央やLCでは必ずしも漢字形が必須ではなく、明確に日本漢字を使用している機関は日本を除いてはCALIS以外にない。②カナヨミ形は日本以外ではほぼ採用されておらず、漢字とヨミとの対応関係は考慮されていない。③ローマ字形はNACSIS-CAT, CALIS, 台湾大, 国立中央では必須ではなく、入力していても漢字形との対応関係が示されない機関もある。さらにローマ字形は日本国内においても表記にばらつきがある。④日本を除き、特に漢字形においては、姓名の分からは必ずしもなされていない。⑤自国・地域の文字を典拠形標目または参照形に採用すること自体は問題ないが、⑥ひらがなによる著者名の場合、日本では使用されていない現地形と、日本語形とのリンクがうまくなされないなどの問題が起こる可能性があり、典拠データの整備が必要である。

引用文献

1) “CALIS联合目录规范控制过程详细说明(更新版)” . <http://project.calis.edu.cn/calis/lhml/calislhml.htm>, (accessed 2012-09-09)

2) CALIS联合目录日文书目数据库建设项目组. CALIS联合目录日文联机编目工作手册. 第4版, 2010, 145p.
 3) “CALIS联合目录规范OPAC”. <http://op.ac.calis.edu.cn/aopac/ajsp/index.jsp>, (accessed 2012-09-09).
 4) “香港中文名稱規範數據庫公眾檢索目錄: HKCAN Database OPAC”. <http://www.hkcan.net/hkcanopac/>, (accessed 2012-09-09).
 5) 中國編目規則. 第3版, 中華民國圖書館學會, 2005, 299p.
 6) “國圖編目作業規範與解釋”. 國家圖書館編目園地. http://catweb.ncl.edu.tw/portal_f2_cnt.php?button_num=f2&folder_id=13, (accessed 2012-09-12).
 7) “國家圖書館・臺灣區域數位圖書館”. <http://www.ncl.edu.tw/mp.asp?mp=2>, (accessed 2012-09-09).
 8) KS X 6006-4:2010. 한국 문헌 자동화 목록 형식-제4부 ; 전자 통제용.
 9) library”. 국립중앙도서관. <http://www.dibrary.net/>, (accessed 2012-09-09).
 10) “서울대학교 중앙도서관 수서정리과정리계”. <http://plaza.snu.ac.kr/~bohy/intro.htm>, (accessed 2012-09-09).
 11) “Seoul National University Library”. <http://library.snu.ac.kr/eng/index.ax>, (accessed 2012-09-09).
 12) 국가전거과일의 협력적 구축방안. 서울, 2006-06-26. 국립중앙도서관자료기획과, 2006, 116p. (2006년 국립중앙도서관「열린정책세미나」 자료집, 3).
 13) “Library of Congress Rule Interpretations Second Edition, 1989: 2010, Update Number 1-2”. Library of Congress. http://www.loc.gov/cds/PDFdownloads/lcri/LCRI_2010-01.pdf, (accessed 2012-09-12).

第4表 ひらがなによる著者名の扱い

検索語	CALIS	HKCAN	台湾国家	国立中央	ソウル大	LC
あさのあつこ	あさのあつこ (アサノ, アツコ)	Asano, Atsuko / 「あさのあつこ」は標目リンク記入? 文字化けで読めず。参照形「浅野敦子」	浅野敦子	아사노 아쓰코(16):あさのあつこ(11)	Asano, Atsuko(3):あさのあつこ(3)	典拠形「Asano, Atsuko」。参照形「あさのあつこ」「浅野敦子(あさのあつこ)」「浅野敦子」
さくらももこ	さくらももこ (サクラ, モモコ)	Sakura, Momoko / 櫻桃子 (「さくらももこ」は参照形? 文字化けで読めず)	櫻桃子 (「さくらももこ」と泣き別れ)	사쿠라 모모코(5):さくらももこ(5)	標目なし	典拠形「Sakura, Momoko」。参照形「さくらももこ」「櫻桃子」
藤本ひとみ	藤本ひとみ (フジモト, ヒトミ)	Fujimoto, Hitomi / 藤本ひとみ, 参照形「藤本瞳」	藤本瞳 (「藤本ひとみ」と泣き別れ)	후지모토 히토미(5):藤本ひとみ(2)	Fujimoto, Hitomi(1):藤本ひとみ(1)	典拠形「Fujimoto, Hitomi」。参照形「藤本ひとみ」
宮部みゆき	日文典拠形は「宮部みゆき(ミヤベ, ミユキ)」。中文典拠形は「宮部美雪」, 参照形「宮部美幸」。	Miyabe, Miyuki / 宮部みゆき参照形「矢部美雪」, 「宮部美雪」	宮部美幸	미야베 미유키(51):宮部みゆき(43)	Miyabe, Miyuki(46):宮部みゆき(46)	典拠形「Miyabe, Miyuki」。参照形「宮部みゆき」「宮部美幸」「宮部美雪」
よしもとばなな (吉本ばなな)	日文典拠形は「吉本ばなな(ヨシモト, バナナ)」, 参照形「吉本香蕉(ヨシモト, コウショウ)」「よしもとばなな」。中文典拠形「吉本芭娜娜」, 参照形「吉本真秀子」	Yoshimoto, Banana / 吉本ばなな, 参照形「吉本芭娜娜」	吉本 芭娜娜, 参照形「吉本芭娜娜」「吉本 真秀子」。(「吉本 ばなな」と泣き別れ)。	요시모토 바나나(37):吉本ばなな(18)	Yoshimoto, Banana(36):よしもとばなな(20); 吉本ばなな(0)	典拠形「Yoshimoto, Banana」。参照形「よしもとばなな」「吉本ばなな」「吉本 バナナ」「吉本芭娜娜」

1 参照形は漢字または日本語形のもののみ掲載した。